

世界各国から地球物理や地震の専門家らが当センター訪問と沿岸被災地を視察しました (2012/1/15-18)

1月15日(日)～18日(水)の4日間、世界各国から地球物理や地震の専門家が当センターを訪問したほか、2011年東北地方太平洋沖地震の沿岸被災地の視察を行いました。15日は、本学大学院理学研究科の大谷栄治教授のゲストであるArizona大学地球理学研究科のCharles T. Prewitt 非常勤教授と本学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センターのStephen H. Kirby 客員教授(米国内務省地質調査所)が沿岸被災地を当センターのアナワット研究員の案内のもと、津波被災地を視察しました。当日は、岩沼市、名取市の仙台空港・関上地区、仙台市の荒浜地区・仙台港・浪分神社の順で各被災地を案内しました。あわせて、東日本大震災の津波による被害状況や復旧・復興活動等についての説明を行いました。16日は、Kirby 客員教授とNorthwestern 大学地球惑星理学研究科のEmile A. Okal 教授が当センターの津波工学研究室を訪問し、菅原研究員が1611年慶長三陸地震津波、アナワット研究員が東日本大震災津波の被害特徴を説明し、最後に今村教授と東日本大震災の事について議論しました。17日は、本学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センターでOkal 教授の講演会が行われ、最終日の18日はアナワット研究員と噴火・予知研究観測センター技術職員の平原聡氏がOkal 教授に沿岸被災地を案内しました。



仙台空港アクセス線の被害による写真と説明



中央：今村教授